

1655 回 (10 月 17 日)

比較社会論

——二つの四不像：日本とモロッコ——

(放送大学) 米 山 俊 直

1989 年～1991 年「アフリカ・イスラームの都市・農村の動態比較」というテーマで文部省の海外研究費の研究代表者になり、私はか 7 人が調査に参加し、タンザニア、ザンビア、マリ、モロッコで都市対非都市、イスラーム対非イスラームという単純な比較軸をもちいて、それぞれの研究に従事した。その中で私は、もっぱらモロッコのフェス市とその周辺農村地域を対象にしてフィールドワークを行ってきた。

フェス市はムーレイ・イドリース一世が 789 年にフェス川東岸に建設を構想したが暗殺され、その子二世が 808 年に建設した首都で、のち 818 年にはスペインから移住してきた人々が西岸にも都市を建設、その全体を城壁で囲み城門を配し、北と南に砦をそなえるなどして、都市の形を作った。1912 年からフランス植民地（保護領）となり、ラバトに首都が移る。フェスにはフランス人の手によってその南西部に新しい都市建設が進んだ。1956 年の独立後も首都はそのまま、政治・行政はラバトへ、経済機能はカサブランカへと移行し、その人口は南から流入するベルベル系の住民が多くなった。

最近では、世界的な人口の都市集中の傾向がここでも認められていて、メディナと呼ばれ旧市街、フランス時代の新市街、それを取り巻く新市街、さらにその外延のスラム街と、高級住宅地帯などによって膨脹した。1956 年独立の頃は 20 万人だった人口が、ディナ 30 万人、新市街 30 万人と言われるようになり、現在は 100 万人を超える。

調査は、個人のライフヒストリー（生活史）を積み上げることによって、この町とその周辺の実態をあきらかにしたいと思い、次のよ

うな人々の生活史を集めることができた。

① メディナにまだ古い邸宅を持っている旧家であるラズラック家の人々。ラズラック家は手広く貿易業を営み、イギリスのマンチェスターとエジプトのカイロにも店をもっていた。当主のモハメッド・ラズラック氏は独立後は貿易業は辞めて市役所に勤めていた。当主とその夫人、および政府の文化財保護局勤務の長女からその生活史を聞いた。

② メディナにやはり立派な邸宅を持つ実業家アブデルアジズ・メルニシ氏。氏の家族は現在は新市街の近代的住宅に住んでいて、メディナの家はほとんど使っていない。そのいここにあたるファティマ・メルニシさん（ラバト大学教授）の紹介でフェス調査が可能になった。イトコ同士はこの住宅で同年同月同日にうまれたという。ファティマさんのお母さんは、家内奴隷の娘だったということで、その生活史も聞いた。家内奴隷の娘でも、父親が認知すれば自由人として家族の一員となれることなど、興味深い。

③ 市会議長フィラリ・ババ氏はフランスの薬学の学位を持ち、家業は薬局であるが、人気のある政治家で、反王党派の社会主義者であった。その政治信念などを聞く。氏はフェスに南から流入してきた家族の三代目であった。

④ 詩人アラウイ・ベリチ氏は、やはり南から流入した墓掘り人の息子として、極貧の家庭に生まれた二代目。ホテル学校に入り、実習でフランスやイギリスに行き、フランス娘と知り合って結婚のち離婚。観光ガイド試験に合格してそれで生計を立てるかたわら著作もあり、詩人として有名になる。その波乱万丈の生活史を聞くことができた。

⑤ モハメッド・シャドリ氏は北の砦にある博物館のディレクターであるが、近くの農村の出身で、両親が農業を営んでいる。本人とその両親の生活史を聞くことができ、近郊農村の状況も、村を訪ね、さらに村での結婚式を見学することができた。